

2021年9月5日

第1314号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉱一(宝徳)
TEL0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉱一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい。(月200円程度)
8月 51人 23,116円
7月 48人 23,860円

市町村合併後、初めて皆川市長が国保減税

皆川市長は平成30年度、国保税を合併後初めて引き下げました。

1人当たり約1万円の引き下げです。

平成大合併以降、国保税は連続して増税され、前権本市政下で2

016(平成28)年度、1人当たり2万115

4円の大幅な値上げとなりました。

しかし、皆川市長になつて、減税へ大きな転換です。

さらに皆川市長は昨年12月、1人当たり5

043円の引き下げを、国保運協に提案しまし

たが、委員の反対があ

り、取り下げました。

共産党市議団は今年3月議会に、国保税引

下げの条例改正を提案しましたが、反対多数で否決されました。(下)

「強権的な意思を感じる」「異様な雰囲気だ」

(表)

自公会派は減税反対の態度がハッキリです。

10月の市長選挙で、皆川市長の減税の流れを逆戻りさせてはなりません。

皆川市長の減税の流れを逆戻りさせてはなりません。

逆戻りさせない

自公会派は10月の市長選挙を前にして、皆川氏に対する意図的な悪宣伝をやっています。

政党活動でもないのに、連名ボスターの大

量張り出しや、「前権本

市政下が良かった」などと言つて、街宣カーで名前を連呼し、最近はのぼり旗も張り出しこそな

い声が寄せられています。

しかし、市民からは

「強権的な意思を感じる」「異様な雰囲気だ」

などの声が寄せられています。

鶴岡市政を後戻りさせ

てしまつたからです。

3月議会に、国保税引

下げの条例改正を提案しましたが、反対多数で否決されました。(下)

「強権的な意思を感じる」「異様な雰囲気だ」

はのぼり旗も張り出しこそな

日本敗戦は周平が中学の最終学年、新学制による3年生の時である。卒業したら上の学校に進学しようと心に決めた。

別に村役場の仕事に不満があつたわけではないが、もっと社会的に広がりのある仕事を

したかったからである。

いい先生になつて子

ども達を育てようと思つた。子ども達の可能

性を引き出す、やりがいのある仕事だと思つたからである。

同級生の中には、卒業したら東京の大学に進学したいという人も

いたが、周平は東京といふまちには少しも興味がなかつた。

進学には父も母も反対はしなかつたし、反対してもおかしくない

中村作右衛門も高山正雄も喜んでくれた。

ただ父は反対はしなかつたが、兄が帰つてこないと大変かなと、心中の不安を漏らしていた。

進学すれば現金収入が減るだけでなく、新たな学費という出費が生じてくるが、兄が帰つてくれば何とかなりそうだと思ったのである。

とにかく試験を受け

てみると、それか

ら一夜漬けといったた

ぐいの猛勉強を始めた。

学校の先生か、物を書く人間になるといいな

『大きくなつたら人にものを教える
（周平独言）鳥刺しの言葉より』

周平の入学どころで

そして翌年春に行われた入学試験に合格した。しかし合格はしたものの、兄はまだ帰還せぬ。生死も知れなかつた。ただその年の入学は幸い5月下旬であった。父は兄が帰らなくて入学させると心を決めていたが、周平はぎりぎりまで待つてそこで判断しようと思つて、北支から上海に出ていたところ、5月になつて兄が復員してたのである。

終戦末期、兄たちの部隊は南方行きが決まつて、北支から上海に移動したが、そのとき部隊は伝染病の胃腸病が流行つて、10人ほど

の兵士が急きよ上海の病院に入院したのだが、その中に兄も入つていた。

そして部隊は兄たちを残して南方に行き、やがて壊滅的な打撃を受けたのだといつた。

兄たちは病気が治る

と原隊に復帰し、北支で敗戦を迎えたのである。兄はいわば命拾いをしたのである。

周平の入学どころで

はないのだが、復員が間に合つて、周平は無事山形師範学校に入学出来たのである。

藤沢周平を読む④ 鈴木重雄(八色木)



少年時代の藤沢さん

